



開港5都市
景観まちづくり会議

原点・いま・そして、

その先へ

5都市の対話による

未来のデザイン

開港5都市 景観まちづくり会議 2023 函館大会

2023 9.10.11 月
9.10.11 土.日.月

横浜
神戸
長崎
新潟
函館

開催記録

開港5都市景観まちづくり会議は、安政5年に開港港に指定された5都市の市民が、景観やまちづくりの課題を協議し、相互に交流することなどを目的に、毎年各都市で持ち回り開催しているものです。



開港5都市
景観まちづくり会議

「開港5都市景観まちづくり会議2023函館大会」は、2023年9月9日から11日の3日間で開催し、2日目は、9月の函館とは思えないほどの気温となりましたが、大会を通じて天候に恵まれ、盛況のうちに終えることができました。ご参加いただいた皆様とご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

大会開催1年前の2022年8月、景観やまちづくりの活動等に取り組んでいる32団体で実行委員会を立ち上げ、以降、時間をかけて企画内容等の検討を行いました。「原点・いま・そして、その先へ～5都市の対話による未来のデザイン～」を大会テーマに掲げ、まちあるきをはじめとする各企画の核に“対話”を設定したことにより、運営側のみならず、ご参加いただいた皆様も主体的に大会に関わっていただけたものと思います。

この流れが次へとつながり、次回開催地の横浜で皆様と再びお会いできることを楽しみにしております。

開港5都市景観まちづくり会議2023函館大会実行委員会
実行委員長 佐々木 馨

CONTENTS もくじ

プログラム	1
全体会議Ⅰ	
開会式	2
基調講演	3
トークセッション	4
アトラクション	6
オリジナルグッズ	7
ウェルカムパーティー	8
第1分科会 函館王道めぐりと新島裏の足跡	10
第2分科会 古地図・古写真でめぐる開港後の歴史～箱館から函館へ～	11
第3分科会 DeepWest:発見を共有するフィールドワーク	12
第4分科会 建築・土木の専門家目線でめぐる～歴史的な建造物活用事例ツアー～	13
第5分科会 文化財と生きる・歴史と生きる-世界遺産に向けての助走	14
第6分科会 JOMONよ時空を超えて“多様性社会を生き抜くために”	15
第7分科会 函館の自然と新たな名物「ブリ」を満喫～函館山&函館公園散策～	16
第8分科会 アニメなどサブカルコンテンツの聖地巡礼体験	17
全体会議Ⅱ	18
オプション企画1 西部地区BAR-GAI	20
オプション企画2 美味しい食事と函館山からの夜景を満喫	21
オプション企画3 道南いさりび鉄道の旅	22
オプション企画4 朝までFGトークショー～幻の第9分科会～	23
FG(フューチャージェネレーション)会議	24
行政会議/代表者会議/全体会議Ⅲ	25
大会宣言	26
写真集	27
開港5都市景観まちづくり会議 沿革/規約	28
各都市参加団体/実行委員会組織図	29

PROGRAM プログラム

9/9
[sat]

全体会議Ⅰ

時間 14:30～17:45
会場 函館市民会館小ホール（函館市湯川町1丁目32番1号）

行政会議

時間 16:10～16:30
会場 函館市民会館2階小会議室（函館市湯川町1丁目32番1号）

ウェルカムパーティー

時間 19:00～21:00
会場 プレミアホテル-CABIN PRESIDENT-函館（函館市若松町14番10号）

9/10
[sun]

分科会(まちあるき)

時間 9:00～15:00 ※一部15:30、16:00終了 会場 市内各所

- 1 函館王道めぐりと新島裏の足跡
- 2 古地図・古写真でめぐる開港後の歴史～箱館から函館へ～
- 3 DeepWest:発見を共有するフィールドワーク
- 4 建築・土木の専門家目線でめぐる～歴史的な建造物活用事例ツアー～
- 5 文化財と生きる・歴史と生きる-世界遺産に向けての助走
- 6 JOMONよ時空を超えて“多様性社会を生き抜くために”
- 7 函館の自然と新たな名物「ブリ」を満喫～函館山&函館公園散策～
- 8 アニメなどサブカルコンテンツの聖地巡礼体験

全体会議Ⅱ

時間 16:00～17:30 会場 旧函館区公会堂（函館市元町11番13号）

FGプレゼンツ 持続可能な景観まちづくりとは？～開港5都市の未来を考えよう～

◎話題提供 ◎グループディスカッション

オプション企画

- 1 西部地区BAR-GAI 時間 17:30～ 会場 西部地区一円
- 2 美味しい食事と函館山からの夜景を満喫 時間 18:00～21:00 会場 函館山山頂ティーラウンジレガート
- 3 道南いさりび鉄道の旅 時間 16:00～20:30 会場 道南いさりび鉄道車内/木古内町
- 4 朝までFGトークショー～幻の第9分科会～ 時間 21:00～ 会場 プレデラ・メール Pres de La Mer

FG(フューチャー ジェネレーション)会議

時間 9:00～10:00
会場 プレデラ・メール Pres de La Mer（函館市弁天町14番14号）

9/11
[mon]

代表者会議

時間 10:15～10:45
会場 函館市地域交流まちづくりセンター（函館市末広町4番19号）

全体会議Ⅲ

時間 11:00～12:00
会場 函館市地域交流まちづくりセンター（函館市末広町4番19号）



全体会議Ⅰ

2023年9月9日(土) 14:30~17:45

会場:函館市民会館小ホール 参加者: 147名

開会式

主催者挨拶

2023函館大会 実行委員長

佐々木 馨



遠路はるばる函館までお越しいただき、ありがとうございます。今回6回目を迎える「函館大会」の開催にあたり、我々は1年以上議論を重ね総力を挙げて取り組んできました。

その結果、8つの分科会、4つのオプション企画を準備することができました。3日間を通じて、大会テーマである「5都市の対話による未来のデザイン」を推進させていただきたいと思います。

また、今回の大会での嬉しい話を3つ紹介します。

1つ目は、大泉市長が出席し、市を代表して挨拶をしていただけたことです。そのことで函館をあげた大会となりました。

2つ目は、大泉市長の掲げた選挙公約に「五稜郭とその関連施設群の世界遺産登録を目指す」ことが入り、関連した内容として明日の第5分科会が開催されることです。

3つ目は、「市民創作 函館野外劇」の特別公演を皆さんに観ていただけることです。35回目を迎えた野外劇を、皆さん、是非楽しんでください。

開催市挨拶

函館市長

大泉 潤



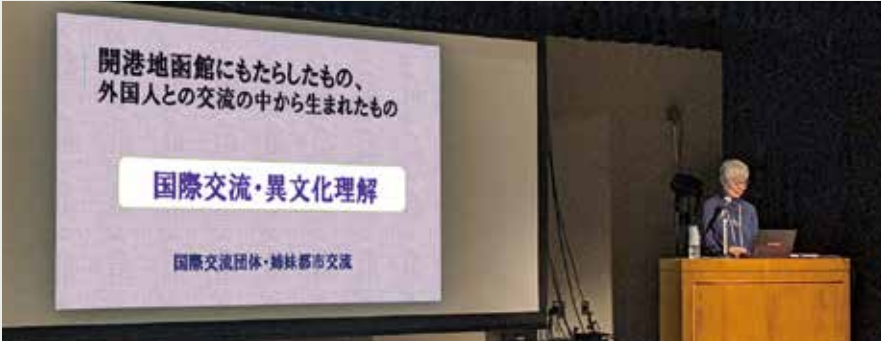
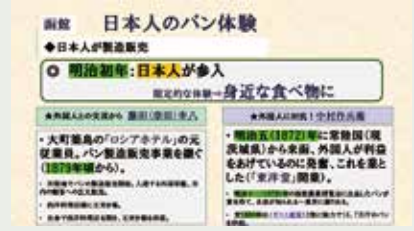
横浜・神戸・長崎・新潟の4都市から、多くの皆さんが函館に集まって下さったことに、感謝申し上げます。

1859年、初めて海外に門戸を開き、明治・大正・昭和・平成・令和と5つの時代を経て、我が国は諸外国の様々な文化を吸収しながら今日の礎を築いてきました。函館山山麓の西部地区には、和洋折衷の建物や教会などがあり、北海道で唯一の重要伝統的建造物群保存地区に選定されております。いまにつながる景観保全の取組は、行政というより、市民活動・草の根運動が力となって進められてきました。昨年、歴史的建造物である旧北海道庁函館支庁庁舎が飲食店に活用されるなど、利活用も進んでおります。また、五稜郭は特別史跡であり、その歴史は函館の歩みと共にあります。その歴史的価値を広く世界に発信すべきと考え、公約といたしました。

本日の基調講演から始まり、明日はバル街も開催されますので、函館の魅力を存分に堪能してください。今大会のテーマである「未来をデザインする」3日間になることを祈念いたします。

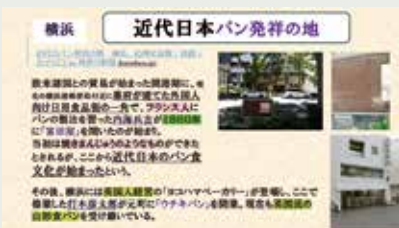
五港『開港』 開港地函館にもたらしたものの、外国人との交流の中から生まれたもの

ロシア極東連邦総合大学函館校教授 倉田 有佳

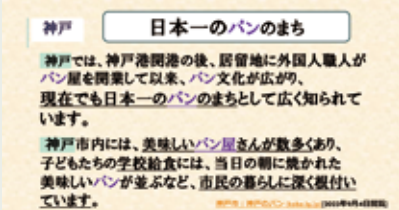


本日はパンという切り口でお話ししますが、開港と同時に伝わったパン文化を通して、5都市の共通部分と相違点を考える機会にしてほしいと思っています。

横浜は、「近代日本パン発祥の地」です。フランス人からパンの製法を習ったのが始まりで、その後、イギリスの影響を受け、現在でも英国流の山形食パンとして親しまれています。

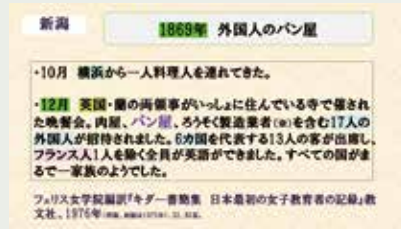


神戸は、「日本有数のパン消費地」であり、京都に次ぐ第2位の消費地です。神戸市のホームページでは「日本一のパンのまち」と紹介されています。雑居地に住む日本人が外国人の食生活を日常的に目にしていたことから、パン文化が暮らしの中に浸透しやすかったと考えられます。

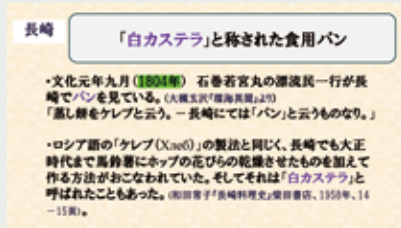


新潟は、資料があまりなかったため、現地の歴史博物館に行って調べてきました。1869年には既に、外国人の手でパン屋が開かれ、明治20年代には「パン菓子の取り締まり」の記事

が新聞に出るほど、パンは身近な食べ物になってきていたようです。明治以降、近代化を強力に進めた県令のバックアップによって、現在まで続く「イタリア軒」も開業します。



長崎とパンの歴史は古く、16世紀の南蛮貿易から始まっており、他の4都市とは違ったパンの受容と普及の歴史がありました。食用パンは「白カステラ」と呼ばれることもありました。長崎が「開港五港」として括れない、別格の存在であることをこの言葉はよく表しています。



このたび、新潟とパンに関する情報は、新潟市歴史博物館(みなとびあ)の学芸員の方々に大変貴重かつ有益な情報を短時間の間にご教示いただきました。改めて感謝申し上げますとともに、「五港」相互の情報共有を提案したいと思います。と言いますのも、情報はインターネットで簡単に入手できますが、正確かつ良質な情報へのアクセス(取捨選択)はむしろ難しい時代です。アナログではありますが、博物館での展示図録や、関連書籍・論文を相互に送付し(数が多い必要はありません)、それらを函館の中央図書館に、「函館学コーナー」、「姉妹都市コーナー」の棚があるように、図書館の一面に「五港」コーナーの棚(大げさなものではなく)を設けてはいかがでしょうか。中学生や高校生が「五港」という文字を目にするだけでも良い機会、知的刺激を与える機会になると思います。

函館は、ロシア領事館に招かれた日本人がパン体験をしたと思われます。また、新島襄も治療を受けたロシア病院では、ロシア人だけでなく、日本人の患者も分け隔てなく治療されましたが、そこで病院食としてパンが出されていました。ただし、これらのパン体験は限定的なものでした。これが明治初期になると、これまで在函外国人が外国人のために製造販売していたパン業界に日本人が参入し、日本人にとっても身近な食べ物になっていきます。

その際、藤田(柴田)幸八はロシア人からパンの技法を引き継ぎ、外国人が独占していたパン業界に打って出て「東洋堂」を創業した中村作兵衛も、函館に寄港する外国軍艦へ食用パンを売り込み、この業界を独占するまでには、在函外国人の支援がありました。

締めくくりにあたり、現在の五港の共通のキーワードとして挙げたいのは、「国際交流・異文化理解」です。ただし、姉妹都市提携の数や在在外国人支援について統計のみに依拠し、実際の内容を精査せずに論ずるのは乱暴です。150年以上前にいち早く開港したから外国との人的・経済的交流が盛んで、異文化理解が進んでいるという単純なものでもありません。古くから外国人が暮らすようになり、異なるモノを受け入れてきたことが外国人が暮らしやすくと感じる土地柄を生み出した。これが「開港五港」の共通する風土であり、この風土が姉妹都市・友好都市提携を結び、相互に人的・経済的交流を推し進めようという雰囲気をも今につなげている、と言えるのではないのでしょうか。

トークセッション

開港5都市景観まちづくり会議が
各都市にもたらしてきたものこれから



岡田:まずこの会議ができたきっかけやその当時の様子を教えてください。

国吉:この会議は、1993年に神戸から始まりました。当時、神戸は新しいまちづくり団体が立ち上がり始め、それらが一堂に会することで神戸にも他都市にも良い影響があるのではと考えたのがきっかけです。当時は各都市がハード面に力を入れ、個性ある町並みづくりの議論が強かったのですが、現在は食や文化、生活そのものの内容を含んだソフト面に変化してきています。互いの都

市の良さや共通点・課題を共有し、話し合う場になってきたと思います。

岡田:各都市で力を入れていることを紹介してください。

佐田野:神戸では、市役所の建替えや三宮周辺の再開発が始まっています。気になることとして、2020年から規制が始まり、現在はタワーマンションが建てられない状況です。規制について、皆さんはどう思われますか。

国吉:横浜のタワーマンションの規制については、関内中央地区では45メー

トルに高さを規制しています。山手地区では、港への眺望を考え、丘の下の地区の高さを25メートル以下としており、また、市民の力で景観維持活動が進められてきました。

上杉:新潟では駅前通りの2キロ区間の再開発をしています。神戸とは状況が反対で、重要文化財の万代橋周辺では高さ規制を少し緩めたことで、一部の建築やまちづくり団体の中では議論が生まれています。

大滝:長崎は新幹線の一部開業などもあり、100年に一度の再開発によるまちづくりが進んでいますが、一方で旧市街ではバル街を開催したり、居留地界隈ではボランティアの観光案内所ができています。

岡田:新潟大会で「五港学」が提起されました。新潟では人物、今回の函館はパンを切り口としました。5港に共通するものは何かありますか。

上杉:新潟には、日本酒の他にワインやクラフトビールもあります。5港の



お酒を切り口としても面白いのではないのでしょうか。かつて5港のビールフェスタやカレーフェスタをしたこともあります。

岡田:5つの都市が集まったことで生まれたもの、もたらしたものはないでしょうか。バル街やタータンなど、今後共通化できそうでしょうか。

国吉:横浜では、FGの番場さんなど若い人が中心となって、横浜タータンを考えています。

上杉:新潟の実行委員会でもタータンを作りたいと話題になりましたが、登録の問題やその後どう使うかなどの難しい課題もあります。とはいえ、4年後に期待してください。

岡田:今回の大会で実現した物として、「開港5都市の歴史資料 複製ポストカード (P7参照)」があります。函館のFGが主導し、各都市のFGと連携して制作しました。

国吉:以前、野毛の街をバル街のようにめぐるがあります。来年の横浜大会の企画になると良いと思っています。

大滝:開港5都市の魅力は人とのつながりです。横浜で推進しているオープンウェディングを、昨年は長崎でも実施しました。公園などを使ったオー

ブンウェディングは他都市でも実現できそうです。

岡田:5年後、30年後、これからの開港5都市会議はどうあるべきでしょうか。

佐田野:前回の神戸大会の時に、行政の財政が厳しくなっているので今後どうするかという話が出ました。しかし、5年後、30年後もとりあえず続けていきたいですね。ハード面よりもソフト面を中心にして、何か持ち帰るものがあると良いと思います。今回はバル街のアイデアなどを持ち帰って、神戸で提案できたらと思います。

大滝:景観やまちづくりは一種の物語だと思っています。開港5都市会議の役割は、物語を伝承する場です。毎年繰り返すことで次につながり、新しいことが生まれると思っています。

上杉:長崎大会でFGが誕生してから、最近は活動の幅が広がっています。観光や商店街をどうするかなど、たくさんの分科会をつくって、様々な視点でまちを見ることが大事だと考えます。また、各都市が抱えている共通の悩みを共有して、課題解決に向けた活動につなげていくことができたらと思います。

国吉:まちづくりの芽が出るまでには時間がかかります。まちづくりは積み

重ねなので、短期ではなく15年あるいは30年という長いスパンで企画するものだと思います。チャレンジしていく各都市の様子を見せ合うことによって、新しいものが生み出されるのではないのでしょうか。

岡田:FGはグループLINEでリアルタイムに連絡が取り合えるようになりました。密な関係を持てるようになったことが大きいと思います。

国吉:横浜も未来会議で、これからの都市デザインをどう展開するのかの議論が始まっています。

上杉:これからの開港5都市を考えるにあたって、「5」という数字は非常に大きな力。この開港5都市の集まりは特別なものであり、力を合わせれば日本の第2の開港の力になると思います。

岡田:時間になりました、話し足りなかった分は、分科会などで交流し、対話をお願いします。皆さん、ありがとうございました。



横浜



パネラー

国吉 直行

(一般社団法人関内まちづくり振興会 顧問)

神戸



パネラー

佐田野 宏之

(神戸市景観形成市民団体連絡協議会 会長)

函館



コーディネーター

岡田 暁

(2023函館大会 副実行委員長)

長崎



パネラー

大滝 悠依

(長崎都市・景観研究所)

新潟



パネラー

上杉 知之

(新潟市景観ネットワーク
(いいがたチューリップ部) 副会長)

※FGとは:Future Generationの略で、これからの景観まちづくりを担う次世代の集まりのこと

アトラクション

「市民創作 函館野外劇」特別公演 『星の城、明日に輝け』



「市民創作 函館野外劇」は今年で36年目。フランス人宣教師フィリップ・グロード神父と有志がフランス「ル・ピデュフ(Le Puy du fou)」野外劇にヒントを得て始めたものです。函館の歴史を太古から現代まで時系列的に演じる、光と音のスペクタクルで、舞台は国の特別史跡五稜郭跡の土手と堀です。また、制作から上演まで、そのほとんどを市民有志が担っており、「市民創作」をタイトルの頭に付しているのはそのことを指しています。

これまでの演劇にはなかった野外でのスペクタクルという新しさ、そして何よりも、市民創作という点が高く評価されて、国や北海道などの行政にとどまらず、各種団体から幾度となく表彰を受けています。ご覧いただいた作品は、「開港5都市景観まちづくり会議」向けの室内特別バージョンです。

【劇の流れと場面の説明】

縄文人が舞台中央に焚火を灯し、続いてコロポックルの長老が「皆様、函館の星の城五稜郭にようこそ」と呼び



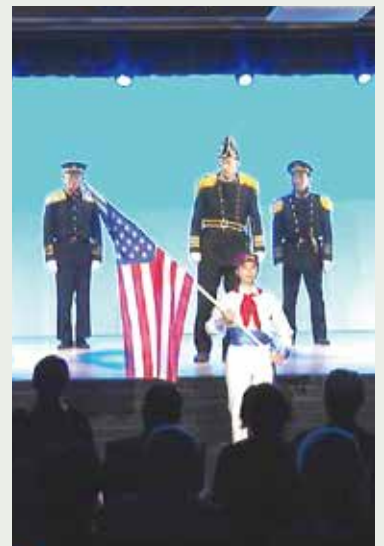
▲コロポックルの長老と2人の女の子ウミとソラ



▲箱館戦争のクライマックスシーン

かけると、小学生が扮するコロポックルたちが現れて踊り始めます。物語の始まりです。

和人植民以前のアイヌの暮らし、高田屋嘉兵衛の活躍、ペリー来航、統豊治、五稜郭完成、箱館戦争、カール・レイモンと勝田コウ、函館大火、北洋漁業、第二次世界大戦など、変わりゆく函館を次々と紹介。なかでも箱館戦争



▲ペリー提督とフラッグダンスをする少女

のクライマックス的な場面で、新政府軍と戦って戦死する新選組副長の土方歳三はまさにヒーロー。また、この戦争の中で敵味方を問わず治療することに命を懸けて説いた高松凌雲は、赤十字精神の草分け的存在です。

劇の案内役はコロポックルの長老と2人の女の子、ウミとソラ。舞台の説明をしながら自らも歌って踊って盛り上

げます。彼らの衣装はアイヌ民族衣装をもとに野外劇のスタッフが縫い上げたもので、修復しながら今も使い続けています。

焚火を中心に厳かに踊るアイヌたち。かつてアイヌ協会から本格的な指導を受けた振り付けを、いまでも引き継いでいます。

高田屋嘉兵衛は、蝦夷の海産物を扱って富を築いた豪商で、函館の経済の基礎を創った人と言っても過言ではありません。ペリー提督は、正真正銘の在日アメリカ人が演じ、外国人特有の発音が臨場感を演出します。彼はフラッグダンス、ソーラン踊りにも加わり、勝田コウとヨーロッパに渡るカール・レイモン役も兼ねており大活躍。

ペリーと入れ替わるように現れるのが統豊治で、洋式帆船を日本人として初めて造った人物です。武田斐三郎は、五稜郭と弁天台場の設計をした人で、北海道最初の学問所「諸術調所」の教授でもありました。彼に教えを乞

うために全国から秀才が集い、今で言えば東京大学の理工学部と言ったところ。

カール・レイモンは、ボヘミア出身の食肉マイスターで、ハム、ソーセージを函館ブランドとして定着させた人。宿泊先の娘である勝田コウと恋に落ちて駆け落ち、国際結婚の奔りとなりました。この後、函館大火や第二次世界大戦の復興から立ち上がる市民の様子

が描かれ、フィナーレへと続きます。

劇を盛り上げるフラッグダンス、ソーラン踊り、剣戟は通年の練習成果が表れ、いつの舞台でも好評です。劇を通して何度も流れる主題歌「星のまちHakodate」は、ヒット曲「千の風になって」の作者新井満によるものです。



市民創作 函館野外劇
<http://www.yagaigeki.com/>



▲カール・レイモンと勝田コウ



▲劇を盛り上げるソーラン踊り

2023函館大会オリジナルグッズ

函館大会のオリジナルグッズとして、今大会のキービジュアルを活用したデザインのTシャツとトートバッグを製作しました。ほぼ全てが函館を代表する建物などですが、他の4都市の建物も1点ずつ入っておりますので、是非さがしてみてください。



Tシャツ

2023函館大会の
キービジュアルを
活用したデザイン



トートバッグ

また、各都市のFGと連携し、開港5都市の博物館等に所蔵されている「開港を象徴する資料」をポストカードに仕立てました。

函館のFGが
主導して作成



※FGとは：Future Generationの略で、これからの景観まちづくりを担う次世代の集まりのこと

開港5都市の歴史資料
複製ポストカード

<https://kaikou5.jp/hakodate/pc/>





ウェルカムパーティー

2023年9月9日(土) 19:00~21:00

会場: プレミアホテル-CABIN PRESIDENT-函館 参加者: 116名

函館市民会館での全体会議Ⅰの盛り上がりそのままに、函館駅前の「プレミアホテル-CABIN PRESIDENT-函館」に会場を移し、4都市の皆さんのおもてなし、5都市の交流の場としてウェルカムパーティーを開催しました。

函館大会副実行委員長による主催者挨拶、函館市長による開催市挨拶および祝杯で開会。函館や近郊の食材を用いた料理やお酒を提供し、食で函館らしさを感じていただきました。



主催者挨拶
2023函館大会 副実行委員長
岡田 暁



開催市挨拶/祝杯
函館市長
大泉 潤



司会
2023函館大会
おもてなし部会副部長
林 田鶴子



中締め乾杯
2023函館大会
おもてなし部会部長
柳谷 一美



◀アトラクションで登場した
演者の方々

Welcome Party

歓談では、会場のいたるところで1年ぶりの再会を懐かしむ笑い声が響いており、恒例の4都市からのお土産にも舌鼓を打ちました。

しばしの歓談ののち、アトラクションとして全体会議Iの特別公演「市民創作函館野外劇」番外編が始まりました。高田屋嘉兵衛や土方歳三などを演じられている方に、劇中の衣装そのまま

でご登壇いただき、司会と長老役の方（劇中案内人）の掛け合いによる登場人物紹介のほか、演者を囲んだ都市ごとの記念写真撮影を行い、大いに盛り上がりました。全体会議Iの特別公演と連動した函館らしいアトラクションとなり、参加者の皆さんに満足いただけたと思います。

その後行われた各都市挨拶では、歌唱や小学生の発表映像などもあり、それぞれの都市らしさを感じる時間となりました。パーティー終盤では、大会歌である「ウェルカム港町」を参加者全員で大合唱。結びとして、函館大会おもてなし部会部会長による北海道恒例の「中締め乾杯」を行い、ウェルカムパーティーを締めくくりました。

お土産

横浜三塔物語
横浜ロケット
幸せを呼ぶ馬車道馬蹄パイ



横浜のみなさん

お土産

神戸ワイナリーのワイン各種



神戸のみなさん

お土産

長崎物語



長崎のみなさん

お土産

笹団子
日本酒各種



新潟のみなさん



▲大泉市長と参加者の交流



▲函館大会実行委員会メンバー



第1分科会

2023年9月10日(日)参加者数:18名

函館王道めぐりと新島襄の足跡



観光ボランティアガイドの案内で函館の主要観光エリアである西部地区を歩き、歴史的建造物や新島襄の足跡をめぐりました。

担当団体 函館観光ボランティア・愛／はこだて検定合格者の会 街DO「話術調所」／函館観光ボランティアガイド縁ジョイ倶楽部

SCHEDULE

金森赤レンガ倉庫 **集合**

- 歩 ▶ 新島襄海外渡航の地碑
- 歩 ▶ 諸術調所跡
- 歩 ▶ 元町公園
- 歩 ▶ 旧北海道庁函館支庁庁舎 **休憩**
函館の講談師 荒到夢形による「新島襄伝」
- 歩 ▶ 旧函館区公会堂
- 歩 ▶ 函館ハリストス正教会
- 歩 ▶ カトリック元町教会など
- 歩 ▶ 五島軒本店 **昼食・対話**

観光ボランティアガイドの今後を見据え、3つのガイド団体が協力して創り上げました。

午前の部のまちあるきでは、今年、生誕180年にあたる新島襄の足跡を辿るコース+これぞ函館という王道コースをミックスした内容としました。

まちあるきの中間地点にあたる旧北海道庁函館支庁庁舎では、ティータイムと休憩を兼ねながら、函館の講談師 荒到夢形さんの「新島襄伝」を聴きました。リノベーションされたレトロな2階の会場で、冷たい飲み物を飲みながら、わかりやすく、おもしろい講談

を聴き、一同大満足の様子でした。

昼食は、函館の老舗料理店「五島軒本店」にて、洋風弁当をいただきました。同会場で、横浜商科大学の秋山准教授から「ポストコロナ時代に求められる観光ガイドと開港5都市のこれから」の提言を聴き、その後、3グループに分かれて対話を深めました。

対話レポート

観光ボランティアガイドの今後

- ・観光ガイドは、その街の道案内としての役割が大切。その際、ストーリー性のある内容を意識すべき。
- ・これからの観光は、体験を通して、その土地の暮らしや産業、地域の魅力を知る内容が良い。
- ・観光ガイドと一緒にまちあるきをするなど優先特典があるなど、ビジネス化を検討しても良いのではないかと。



▲旧函館区公会堂前



▲五島軒本店で昼食・対話



▲講談師 荒到夢形さん



第2分科会

2023年9月10日(日)参加者数:17名

古地図・古写真でめぐる 開港後の歴史～箱館から函館へ～



「古地図・古写真」を活用しつつ、幕末から昭和初期までの函館の歴史を堪能しました。

担当団体 NPO法人 函館市青年サークル協議会／ほこだて外国人居留地研究会／函館観光ボランティア 一會の会／NPO「箱館写真」の会

はじめに函館が天然の良港として栄えた歴史が深い街であること、明治から昭和戦前期にかけて多くの大火に見舞われたことなど、函館の基礎的知識をお伝えしてから、まちあるきに繰り出しました。

テーマをより深く理解していただくために、訪れた場所と関連が深い資料(古地図・古写真など)をフリップにして解説。それらの資料をいつでも閲覧できるルートマップ(参加者全員に配付)には、函館市中央図書館や市立函館博物館のデジタル資料館につながる二次元バーコードを配置しました。

まちあるきでは、アメリカ、フランス、ロシア、イギリス、中国などの諸外国と函館の関わりを解説したほか、田本研造など多くの写真師が幕末から明治にかけて活躍したこと、耐火建築物や和洋折衷建築物が函館に

は数多く残っている理由、箱館の「箱」の由来、箱館奉行所の研究教育施設「諸術調所」教授の武田斐三郎と同志社創設者の新島襄がすれ違ったエピソードなどについて紹介しました。

函館市地域交流まちづくりセンターにおいて、「東北以北最古の手動式エレベーター」の搭乗体験をした後、「歴史資料の活用方法／観光ガイドのやり方や課題」をテーマに対話を開始。互いに持ち寄った歴史資料を活用して、2グループに分かれて対話を深めました。



▲函館市地域交流まちづくりセンターで対話

SCHEDULE



◀配付した
ルートマップ

マップ下地提供
函館西部地区バル街実行委員会

- JR函館駅前交番横 **集合**
- 🚶▶ 外国人墓地
 - 🚶▶ 木津孝吉の写場
 - 🚶▶ 函館元町ホテル
 - 🚶▶ 函館中華会館
 - 🚶▶ ペリー提督来航記念碑
 - 🚶▶ 旧北海道庁函館支庁庁舎 **昼食**
 - 🚶▶ 函館ハリストス正教会など
 - 🚶▶ 二十間坂(北斗ビル)
 - 🚶▶ 函館市地域交流
まちづくりセンター **対話**

対話レポート

歴史資料の活用方法／ 観光ガイドのやり方や課題

- ・まちあるきは「市民の街へのマインド」を育てるツールになる。(例:長崎さるく)
- ・資料を活用して制作したものを「作って

- お終い」ではなく、どのように利活用するかを考えるべき。
- ・中華会館の館内デジタル化。クラウドファンディングで資金調達を。
 - ・「歴史」と「食」をつなげて、女子目線での新たな観光コンテンツ開発を。
 - ・歴史資料を多くの人の目に触れられるような拠点作りを。

歴史資料をフリップにして解説▶





第3分科会

2023年9月10日(日)参加者数:6名

DeepWest:発見を共有するフィールドワーク

西部地区の奥地(Deep West)で、ポイントをめぐりながらまちを観察しました。

フィールドワークにご協力いただいた「小田島水産」▶



担当団体 公立大学法人公立はこだて未来大学／野又学園函館大学

SCHEDULE

旧金森船具店 **集合・アイスブレイク**

▶ フィールドワーク
(大町、弁天町、弥生町など)

▶ 旧金森船具店 **昼食**
フィールドワーク結果のシェア/
振り返り **対話**



▲フィールドワークの様子

函館市内の2つの大学が共同し、「分科会参加者がボトムアップ的発見共有手法を実験的に体験すること」、「手法の体験を通してそれぞれの地域で活動する若者(主に学生)が交流する」ことを目的に企画しました。

具体的には、「Deep Westで見つけるまち暮らしの種」をテーマに、「観光客のあまり訪れない函館西部地区の奥地を『Deep West』と定義し」、「その生活者(居住者、活動者、訪問者)の拠点をStationと名づけ」、「分科会参加者がそのStationをめぐりながら、実際の『まち暮らし』の痕跡、現状、未来につながる気づきを、各自の視点で発見し」、「参加者各自が個人視点で発見(観察・対話・体験・空気感など)したモノゴトを『事拾いカード』とし

て残り」、「最後にストーリーとして共有する」というワークショップを実施しました。

「事拾いカード」とは、出来事を簡単に生け捕りにできるカードで、今回の分科会に向けて考案したものです。

午前中は、本部基地とした旧金森船具店を起点として、3グループに分かれて「小田島水産」「TOPPAN」「未来大弥生基地」のいくつかをめぐりました。午後からは、各グループが制作した「事拾いカード」を用いて、それぞれの視点をストーリーとして共有して、活発に議論を交わしました。

なお、他都市の学生にも参加してもらうこと(今回は参加者なし)で、より目的に即した成果が得られたものと考えます。

対話レポート

ボトムアップ的発見共有手法／学生間交流

- ・フィールドワーク後、それぞれのチームがそこで得た気づきをストーリーとしてまとめ、それを相手チームにプレゼンテーションすることで、それぞれの視点を共有した。
- ・「Deep West」の生活者の実践する様々な活動について、参加者から今後の発展について期待する声が聞かれた。

◀旧金森船具店でフィールドワークの振り返り





第4分科会

2023年9月10日(日)参加者数:18名

建築・土木の専門家目線でめぐる ～歴史的な建造物活用事例ツアー～

歴史的建造物の改修や利活用事例のほか、まちを支える
インフラを見学し、函館の建築・土木の歴史をめぐりました。

担当団体 一般社団法人 北海道建築士会函館支部／函館湾岸価値創造プロジェクト



建築・土木の専門家チームとして、函館に古くから残る建築物の活用事例や街を支えるインフラを見学するルートを企画しました。

古民家再生やリノベーションを多く手掛ける富樫雅行さんには、「街角NEW CULTURE」の空きビル活用事例やこれまで手掛けた再生利活用事例の紹介をいただき、函館銀座通りを研究されている金子悠さんには、銀座通りの歴史や残存している建物の説明をしてもらい、参加者の皆さんとともに古い建物を再生する上での課題を議論しました。

その後、まちあるきを行い、日本最古のコンクリート寺院「東本願寺函館別院」では公益財団法人 文化財建造物保存技術協会の内海勝博さんより、文化財建造物の説明を受け、普段は立ち入れない寺院の小屋裏内部を見学させていただきました。また、昼食は古い建物を活用したレストラン「コルツ」で、歴史的な雰囲気を感じながら、函館の食事を楽しみました。

午後からは、土木建造物である元町配水場の内部見学を行い、外部からは見えない地下空間の壮大さと函館を支えるインフラの歴史を知ることができました。

とても暑い中、長距離で盛りだくさんのまちあるきでしたが、函館の建築・土木についての歴史や活用事例を楽しみながら学ぶことのできる分科会となりました。



▲日本最古のコンクリート電柱の前

対話レポート

歴史的建造物の利活用方法

- ・古い建物を利活用していくには、市民や行政の理解が必要。
- ・事業が成り立たず廃業する時にオーナーが批判の矛先になるのが課題。
- ・利活用しようとするオーナーの心意気を汲んで、行政が財政面および許認可の側面で支援しないと歴史的建造物は残せない。

元町配水場の内部見学▶

SCHEDULE

街角NEW CULTURE 集合・事例紹介・対話

- ▶ 日本最古のコンクリート電柱
- ▶ 大三坂ビルディング
- ▶ 東本願寺函館別院
- ▶ 銀座通り (旧梅津商店など)
- ▶ コルツ **昼食**
- ▶ 元町配水場
- ▶ 函館市地域交流 まちづくりセンター **対話**



▲レストラン「コルツ」で昼食





第5分科会

2023年9月10日(日)参加者数:13名

文化財と生きる・歴史と生きる - 世界遺産に向けての助走

観光客と市民生活との分断的状况などの課題を体感しつつ、その解決策を考えながら世界遺産への道標を探りました。



担当団体 NPO法人 NPOサポートはこだて / 五稜郭の文化価値を考える会 / 函館観光ボランティアガイド縁ジョイ倶楽部

SCHEDULE

五稜郭タワーアトリウム **集合**

▶ 五稜郭タワー

▶ 五稜郭公園

▶ 函館ビヤホール **昼食**

▶ 遺愛幼稚園

▶ 弥生小学校

▶ 函館中華会館

▶ 元町公園

▶ 旧北海道庁函館支庁庁舎 **対話**

「文化財と生きる・歴史と生きる-世界遺産に向けての助走」をテーマに、観光地として知られる「五稜郭」、文化財が多く残る「西部地区」の歴史遺産などをまちあるきしながら見学しました。

まず、五稜郭タワーの展望台で公園の全景・歴史を体感していただいた後、実際に公園内を歩いて、史跡の保護、保全、歴史的価値を考えてもらいつつ、市民生活の中にある公園の在り方などをお伝えしました。公園散策後は櫻交流ハウスに移動。「函館野外劇」の会副理事長より、五稜郭築造の経過のほか、文化振興ツールとしての野外劇の存在などについてお話しいただき、参加者からは、野外劇を絶賛する声が多く聞かれました。

その後、市電に乗り西部地区に移動。金森赤レンガ倉庫内の函館ビヤホールで昼食をとり、多くの観光客が訪れる民間所有の営業倉庫であることを伝えました。

午後からは、歴史的にも物語がある建物などを見学しました。遺愛幼稚園では北海道教育大学函館校の学生さんに、地元住民が文化財の中で生活

することの問題点とその解決策の提案等を発表していただいたほか、参加者とも意見交換ができて大変有意義でした。また、歴史ある弥生小学校では景観と復元校舎の是非、函館中華会館では所有管理者の方から建物の維持・保存の課題などが話題になりました。最後に、旧北海道庁函館支庁庁舎があったことで「函館の歴史的風土を守る会」が誕生し、函館の文化遺産を守るきっかけにもなったことなどをお伝えしました。

対話では、各都市が抱える課題を出し合い、「文化財と生きる・歴史と生きる」ことへの思いを共有しました。次回の開港5都市景観まちづくり会議につながる、有意義なまちあるきになりました。

対話レポート

文化財と生きる・歴史と生きるとは

- ・まちづくりにおける担い手や当事者人口を増やすことが大切。
- ・市民が行政に対して声を届けることも大切だが、様々な切り口で市民と行政が対話を重ねて知恵を出し合うことも大切。
- ・「保存・修復・耐震・活用」など様々な課題はあるが、上記を踏まえて取り組むことで「市民生活」と「文化財行政」は密接な関係になりうる。
- ・価値観の違いを互いに認め合いながらも、同じ目的に向かう難しさも提示された。

◀「函館野外劇」の会 里見副理事長の説明に耳を傾ける参加者



▲旧北海道庁函館支庁庁舎前

▼函館中華会館内





第6分科会

2023年9月10日(日)参加者数:10名

JOMONよ時空を超えて “多様性社会を生き抜くために”

世界的には“貴重な”地元にとっては“日常な”
世界文化遺産「縄文遺跡」とその周辺地域をめぐりました。

担当団体 縄文DOHNANプロジェクト



函館が国際貿易港として開港するずっと前、函館には縄文時代が存在していました。世界文化遺産と共生していく地域の関わりをテーマに、多様な業種のメンバーで活動している団体「縄文DOHNANプロジェクト」の13名が案内しました。

道南地域の垣ノ島遺跡・大船遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が2021年に世界文化遺産に登録。両遺跡が函館の中心部から離れていることもあり、バスに乗って近郊の周遊観光をしながら遺跡をめぐりました。移動中の車内では、対話のほか、道南の縄文についての知識を集約した「縄文紙芝居」や縄文クイズ、参加者が順にバスガイドの様にマイクを持って自己紹介するなど、長い移動でも楽しめるように工夫しました。

103℃の湯が15mも噴き上げる「しかべ間歇泉公園」では、足湯に浸りながら見学された方も。「大船遺跡」では、縄文時代へタイムスリップしたかの様な竪穴式住居跡が佇み、豊かな自然と海に囲まれた中で案内しました。「函館市縄文文化交流センター」では国宝「中空土偶」と対面したのち、「垣ノ島遺跡」で地元の食材をふんだんに使った「中空土偶弁当」を堪能しまし

た。昼食後には、学芸員さんから思いがこもった説明と北海道最大級の盛土遺構にあるパワースポットも案内していただきました。バスでの長距離移動でお疲れの方も見られましたが、函館で約半世紀ぶりに誕生した酒蔵「五稜乃蔵」で地酒「五稜」の試飲を愉しんで疲れを癒しました。



▲大船遺跡の竪穴式住居跡

SCHEDULE

- JR函館駅前広場 **集合**
- 🚗▶道の駅しかべ間歇泉公園
- 🚗▶大船遺跡
- 🚗▶函館市縄文文化交流センター
- 🚶▶垣ノ島遺跡 **昼食**
- 🚗▶移動中車内 **対話**
- 🚗▶五稜乃蔵
- 🚗▶JR函館駅/旧函館区公会堂



▲函館市縄文文化交流センター内

対話レポート

世界遺産と共生していく地域の関わり

- ・函館に住んでいても、両遺跡に足を運ぶ機会は少ないが、実際に行ってみると楽しかったという声があった。
- ・「縄文をテーマにしたまちづくり」が成立することを知ることができた。



国宝・中空土偶▶



▲酒蔵「五稜乃蔵」



第7分科会

2023年9月10日(日)参加者数:9名

函館の自然と新たな名物「ブリ」を満喫 ～函館山&函館公園散策～

函館のシンボルでもある函館山と函館公園をのんびり散策し、近年漁獲量が増えているブリに舌鼓を打ちました。

担当団体 函館の歴史を学ぼうかい／一般社団法人 Blue Commons Japan／はこにわ



▲函館ブリ塩ラーメン

び、学芸員さんからの展示解説を聞いて改めて開港という歴史について学びました。

天気心配もありましたが、晴天に恵まれ、当日は参加者同士の交流が深まり、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。



▲「こどものくに」の日本最古の観覧車

SCHEDULE

- 函館山ロープウェイ山麓駅 **集合**
- 歩 ▶ 函館山(旧登山道コース散策)
 - 歩 ▶ 御殿山第2砲台跡
 - 歩 ▶ 御殿山第1砲台跡
 - 歩 ▶ 函館山山頂展望台
 - 歩 ▶ 函館朝市ひろば **昼食・対話**
 - 歩 ▶ 函館公園
 - 歩 ▶ 市立函館博物館(企画展見学)



▲函館山散策の様子



▲御殿山第1砲台跡

はじめに約1時間半かけて函館山山頂を目指し、休憩を挟みながら、函館山の成り立ちや豊かな自然を体感しました。函館山は要塞としての側面もあり、山頂展望台には普段立入禁止となっている第1砲台跡があります。今回は特別に許可を得て、その中を見学することができ、函館山の深い歴史に触れることができました。

函館朝市ひろばでは、北海道で漁獲量が増加しているブリの消費拡大の取組についてお話を聞き、昼食は「函館ブリ塩ラーメン」と「北海道ブリたれカツ」を堪能しました。ブリ節から取った出汁には旨みが凝縮され、参加者にも大変好評でした。

昼食後の対話の時間では、他の都市でも昔は獲れていた魚が獲れなくなっている魚種転換の話や、新たな観光コンテンツについて多くの意見が飛び交いました。

函館公園では、園内にあるミニ遊園地「こどものくに」に現役で稼働する日本最古の観覧車があり、参加者も実際に乗って楽しみました。また、同じく園内にある博物館では企画展「外国人が見たみなとまちHAKODATE」が行われており、幕末・明治期の函館がたどった歴史や外国人たちが見た景色など興味深い展示が数多く並

対話レポート

魚種転換の事例や対応策／新たな観光コンテンツの可能性

- ・新潟ではブリが獲れなくなってきて、今は本マグロが釣れるようになり、ここ2～3年でレジャーで釣れるようになった。
- ・新たな観光コンテンツは、生活圏の中にある魅力ある裏〇〇や、まちの垣根を超えた国宝とのコラボ商品開発など様々な意見が出た。



第8分科会

2023年9月10日(日)参加者数:10名

アニメなどサブカルコンテンツの 聖地巡礼体験

「ゴールデンカムイ」や「ラブライブ!サンシャイン!!」などの
函館を舞台にしたアニメや漫画の聖地をめぐる体験。

担当団体 一般社団法人 はこだて地方創生研究会 / Code for Hakodate / 市民有志



函館には「絵」になる歴史的建造物や豊かな自然環境があることから、多くの映画撮影のロケ地に選ばれています。近年、アニメや漫画の重要な舞台をめぐるものが「聖地巡礼」と称され、日本国内のみならず世界的なムーブメントが起こっています。函館もその例外ではなく、多くの作品の聖地になっています。今回は、北海道を舞台にした「ゴールデンカムイ(以下GK)」と、第2期の8・9話で函館の名スポットが数多く登場した「ラブライブ!サンシャイン!!(以下LS)」の2作品を軸に「聖地巡礼」を行いました。

まずは、五稜郭地区にあるシエスタハコダテを出発し、GKのストーリー上で最も重要な局面が展開された「五稜郭公園」を巡礼。漫画の内容とそのシーン、歴史的背景なども交えてスタッフが解説。同時期に開催中だったGK展の「名所フォトスポット」が設置されていたこともあって、濃厚な「聖地巡礼」ができました。

その後、LSに登場した「五稜郭タワー」前を通って、函館市電に乗車して函館駅前・西部地区へ。同じくLSに登場した「函館国際ホテル」「金森赤レンガ倉庫群」「西波止場」「ハセガワストア」「ラッキーピエロ」な

どをストーリーと照らし合わせて巡礼。道中、ご当地ヒーローの「函館鮮士イカダベッサー」も乱入。お昼休みはラッキーピエロのハンバーガーを食べながらLSを視聴しました。

昼食後、LSの作中にも登場した「茶房菊泉」などを通して、対話会場の「函館ビヤホール」へ。イカダベッサーのプロデューサーやコスプレイベント企画者のトークで盛り上がりただけでなく、GK展の企画運営者も参加していたこともあって、かなり濃密な対話の時間になりました。

SCHEDULE

シエスタハコダテ **集合**

- 歩 ▶ 五稜郭公園
- 歩 ▶ 函館駅前
- 歩 ▶ 函館国際ホテル
- 歩 ▶ 金森赤レンガ倉庫群など
- 歩 ▶ 函館市地域交流
まちづくりセンター **昼食**
- 歩 ▶ 八幡坂
- 歩 ▶ 茶房菊泉
- 歩 ▶ 函館ビヤホール **対話**

対話レポート

サブカルコンテンツの 観光資源化と発展

- ・「聖地巡礼」地において、ファン同士をつなげる「おもてなし」と優しいまちづくりを意識する。
- ・サブカルで収益化するためには行政・企業・市民活動団体等が互いに情報共有する必要がある。
- ・作品の受け皿としての聖地とは別に、作品の製作環境を整備・誘致することで、新たな聖地の形を模索でき、持続可能になるのではないかと。



▲箱館奉行所前に設置されたGK展の「名所フォトスポット」でシーンを再現



全体会議Ⅱ

2023年9月10日(日) 16:00~17:30
会場:旧函館区公会堂 参加者:73名



FGプレゼンツ 持続可能な景観まちづくりとは?~開港5都市の未来を考えよう~

今大会のテーマ「原点・いま・そして、その先へ~5都市の対話による未来のデザイン~」が企画の根底にあります。景観まちづくり会議が5都市の交流の場であるとともに、開港都市ならではの課題共有の場という意義があると考え、5都市の将来を担う世代=FG(フューチャー・ジェネレーション)をはじめとした参加者がじっくり膝を突き合わせて対話し、「THE景観まちづくり会議」となる企画を目指して走り

出しました。企画・運営は函館FGのメンバーが中心を担いました。

冒頭では、函館西部地区の町並みを再現した模型製作に取り組む函館工業高校建築科3年生に話題提供していただきました。二本柳慶一建築研究所と共に進めている模型製作の取組に関して紹介があったほか、現地調査で気づいたまちの課題を発表。「リノベーション推進による歴史的景観の維持」「斜行エレベーター設置によ

る坂道の利便性向上」など、高校生ならではの発想で西部地区活性化のアイデアを提案いただきました。会場では、高校生が実際に製作した模型を展示し、成果を披露。グループディスカッションにも参加していただきました。

ディスカッションでは国連の持続可能な開発目標「SDGs」をモチーフに、「持続可能な景観まちづくり」に向け、今後、各都市や5都市全体で目指すべ



▲製作した模型の展示



▲話題提供する函館工業高校の生徒たち

general meeting 2

きキャッチコピーをグループごとに作成しました。

①景観 ②歴史・文化 ③環境 ④交通
⑤経済 ⑥人材育成 ⑦福祉(多様性)
⑧情報技術・情報システム ⑨港 の9
テーマを設けてグループを構成し、5都
市のFGが協力してファシリテーター
を務めました。それぞれのテーマに
沿って課題や解決策を出し合い、
キャッチコピーで表現する作業を進
め、付箋で考えを共有しながら熱の
入った議論が展開されました。

今回のディスカッションでは、開港5
都市版SDGsキャッチコピーが15個生
まれました。

完成したキャッチコピーは、函館デ
ザイン協議会の協力でカラフルなパネ
ルに仕上げていただきました。

全国で人口減少やそれに伴う人手不
足が深刻化する中、景観まちづくりの
担い手確保も例外ではありません。



▲様々な意見が出されたグループディスカッション

今回のディスカッションで得られた成
果が、5都市の歴史的な景観や町並み
維持、コミュニティを未来につないで
いくための、「持続可能な景観まちづく

り」を考えていく一つのきっかけにな
れば、函館FGメンバー一同光栄に感じ
ます。ご協力いただいた関係者の方々
に厚くお礼申し上げます。

景観

- 01 街にふれてたくさん街を知ろう
- 02 地域 みんなでビジョン共有

交通

- 06 乗りたくなる交通手段の確保
- 07 そうだ!! 公共交通ルートでいこう!

福祉(多様性)

- 11 私にできることで隣人を支えよう
- 12 インクルージョンで変えていこう!

歴史・文化

- 03 ワタシの推しは地元です!
- 04 市民と行政が新たな表現で歴史発信

経済

- 08 時代の変化に対応し、第2の開港を!

情報技術・情報システム

- 13 誰もがわかる短い言葉で伝えよう!

環境

- 05 まずはゴハンを残さない!!

人材育成

- 09 世代をこえてみんなでパズルを埋めよう
- 10 居場所のない若者に居場所を

港

- 14 未来の人材に足を向かせる港づくりを!
- 15 ふと埠頭へ

▼開港5都市版SDGsキャッチコピーパネルお披露目





オプション企画 1

西部地区BAR-GAI

Optional plan 1

2023年9月10日(日) 17:30～ 会場:西部地区一円 参加者:83名

2017年度グッドデザイン賞を受賞した函館発祥のバル街。
ピンチョスを肴に5軒のはしご酒を楽しみました。

函館西部地区バル街
<https://bar-gai.com/>



函館を代表する一大イベント「函館西部地区BAR-GAI」。2004年に開催された「2004スペイン料理フォーラム in HAKODATE」の前夜祭として行われた「西部地区で一晩のバル街を」をきっかけに始まりました。

20年以上続く、西部地区の町並みと食を堪能するイベントです。5枚つづりのチケットとマップを手に、各店オリジナルのピンチョスとドリンク1杯を楽しむことができます。5年前の函館大会と同じく、オプション企画の一つとして4都市の方々に楽しんでいただきました。

当日は、全体会議Ⅱの会場である旧函館区公会堂に集合。函館西部地区バル街実行委員会から、西部地区の特色のほか、バル街のルールと楽しみ方について説明し、その後、西部地区のまちに繰り出しました。

5年前の函館大会では、全ての班に実行委員会のメンバーが付いてアテンドしながら楽しんでいただきましたが、今回は、基本的には各自自由に参加していただき、希望者のみアテンド



▲バル街マップ

が付く形としました。

同じ都市の方同士やFG同士など、それぞれで楽しい時間を過ごし、お店によっては、函館市民との交流が行われていた場所もありました。

当初、函館大会の開催日はバル街の日程と重ならない予定でしたが、4都

市の方々からバル街を楽しみにする声が多くあり、開催日を合わせる形で大会日程を調整いたしました。

当日は天気も良く、まちあるきしやすい秋の夜となり、多くの参加者の方々に楽しんでいただくことができました。



オプション企画②

美味しい食事と函館山からの夜景を満喫

2023年9月10日(日) 18:00~21:00 会場:函館山山頂ティーラウンジレガート 参加者:14名

Optional plan 2

函館山ロープウェイで山頂へ。山頂ティーラウンジレガートにて
函館山からの夜景を見ながらの食事と講師荒到夢形さんの講談を楽しみました。

函館山山麓駅からロープウェイで山頂へ移動し、ティーラウンジレガートの個室で開宴しました。函館山からの夜景の美しさは天候に左右されるため、当日の天候を心配していましたが、その不安も吹き飛ばすような快晴に恵まれ、最高のおもてなしの舞台が整いました。

スタッフの乾杯の発声にて宴会がスタート。函館ならではの食材を使用した料理やお酒を楽しんでいる間に、絶好の夜景タイムが始まりました。

神戸市は「摩耶山掬星台」を、長崎市は「稲佐山(世界新三大夜景)」を、横浜

市は「横浜ランドマークタワー」を、新潟市は「新潟日報メディアシップ そらの広場」を擁する夜景自慢の都市の方々に、日本三大夜景および世界三大夜景である「函館山からの夜景」をお披露目しました。個室の大窓からの写真撮影は誰にも邪魔をされることがなく、夜景に隠れている「ハート」を見つける方も。最高のロケーションを存分に堪能していただくことができました。

その後、北海道の歴史や縁のある人物伝を緩急自在に語る講師 荒到夢形さんによる講談が始まりました。開港5都市のつながりのエピソードを独

特の抑揚と言葉でたたみかけ、張り扇と扇子で台をリズムカルにたたき音が室内に響き渡りました。全員が素晴らしい講談に聴き入り、多くの投げ銭で会場が盛り上がりました。

締め乾杯で締め括った後、参加者の皆さんは帰りのロープウェイ出発までの時間、ショップや展望台で過ごしました。美味しい料理とお酒、夜景と講談で楽しいひととき。各都市の交流も深まって大いに盛り上がり、函館ならではのおもてなしをすることができました。





オプション企画③

Optional plan 3

道南いさりび鉄道の旅

2023年9月10日(日) 16:00~20:30 会場:道南いさりび鉄道車内/木古内町 参加者:7名



工場夜景やいさりびを見ながら木古内町までの小旅行。
木古内町では、美味しい食事や日本酒飲み比べのほか、天保2年(1831年)から続く神事「寒中みそぎ」のお話を聞きながらの散策を楽しみました。

オプション企画3は、函館を飛び出し、道南いさりび鉄道を利用して木古内町までの小旅行。

函館駅に集合し、全体のスケジュールなどを説明した後、16時24分発の車両に乗車しました。道南いさりび鉄道は、北海道新幹線の開業に伴い、JR北海道から経営分離された路線で、第三セクター方式により運営されています。車内では、道南いさりび鉄道の社員の方から、会社として取り組んでいる地域活性化の取組や近隣市町の名所などの説明が行われました。約1

時間乗車し、到着した木古内駅では、木古内町と北斗市の公式キャラクターである「キーコ」と「ずーしーほっきー」がお出迎え。

木古内町到着後は、道南いさりび鉄道の利用促進などに取り組む地域応援隊のアテンドのもと、1831年から続く神事である「寒中みそぎ」の舞台となるみそぎ浜まで散策を行いました。真冬の北海道の海でご神体を潔める神事の話聞いた参加者は、大変驚いておりました。

その後、木古内駅に隣接する道の

駅「みそぎの郷 きこない」に戻り、地域応援隊の活動内容等の説明を受けながら食事をとったほか、新たに函館に誕生した酒蔵の日本酒や北斗市、木古内町のお酒の飲み比べを行いました。

帰りは、19時15分発の車両に乗車し、函館に向けて出発しました。車内では、車窓から見える函館湾と函館山の横夜景を楽しみながら、会話が弾んでいました。函館だけに縛られず、周辺地域を訪れ、その土地の魅力を知る企画は、5年後も実施したいと思いました。



▲公式キャラクターとの集合写真



▲地域応援隊員のアテンドによる木古内散策



オプション企画 4

朝までFGトークショー～幻の第9分科会～

プレ・テラ・メール

2023年9月10日(日)21:00～ 会場: Pres de La Mer 参加者: 49名

各都市のショートプレゼン大会をはじめ、FGの今後について語り明かし、参加者同士の交流を楽しみました。

議論を深めるための「新しい場づくり」を模索したいと考えて企画しました。「幻の第9分科会」と銘打ったのは、分科会の一つとしても成立する企画内容にしたかったためです。

会場は、2020年の神戸大会にオンライン参加した橋谷秀一さんがオーナーの貸別荘で、2022年度グッドデザイン賞を受賞しています。

会場内は貸別荘にもかかわらず50名近くが参加したため、屋外テラスや庭にも会場を拡張。建物の外壁に取り付けたスクリーンに、オンライン配信の様子をプロジェクターで投影しました。発表組数の制限は設けず、各都市の持ち時間を30分(函館のみ前半に30分、後半に30分)に設定してペース配分はお任せする形式で行いました。

各発表者の実績報告だけでなく、各都市同士でクラウドファンディング協力の呼びかけを行うなど、和やかな雰囲気の中で新たな試みも実践できました。発表の間も、会場内の各所で交流が行われていたことも

印象的でした。

また、この時間内に、全体会議Ⅱで作成した開港5都市版SDGsキャッチコピーがパネルになって到着したので、それをみんなで持って記念撮影も

行いました。参加者の大半は日付を跨いだあたりで会場をあとにしましたが、急遽追加の発表も。一部は「朝まで～」というタイトルの通り、午前4時頃まで対話を楽しみました。

発表者一覧

函館(前半)

- ①下沢 杏奈 [一般社団法人 いとこの]
- ②本間 税 [一般社団法人 函館青年会議所]

横浜

- ①若泉 悠 [ヘリテイジタイムズ横浜・神奈川]
- ②岡部 正嗣 [横浜市都市デザイン室]

神戸

- ①永田 泰資 [三宮中央通りまちづくり協議会]
- ①藤本 はな [美しい街岡本協議会]
- ①坂田 知穂 [神戸市都市局景観政策課]
- ②小川 嘉之 [コネクト神戸]
- ②井上 小矢香 [コネクト神戸]

長崎

- ①平山 広孝 [長崎都市・景観研究所]
- ②青柳 智子 [東山手「地球館」]
- ③岩本 諭 [長崎居留地歴史まちづくり協議会]

新潟

- ①本間 海渡 [NPO法人 新潟海洋開発]
- ②西野 廣貴 [NPO法人 新潟海洋開発]

函館(後半)

- ①豊島 翔 [株式会社アノニギワイ]
- ②仙石 智義 [NPO法人 函館市青年サークル協議会]



FG会議

2023年9月11日(月)9:00~10:00

プレ・デ・ラ・メール

会場: Pres de La Mer 参加者: 30名



開港5都市丼▶

5都市FGの今後について

朝食は、函館近海の新鮮な魚介類を盛り込んだ海鮮丼「開港5都市丼」を提供。開港5都市の旗で装飾しました。参加したFGメンバーで「開港5都市丼」を食べながら、前日のオプション企画4なども含めた函館大会を振り返りました。また、FGとしての今後の活動内容

を検討するため、5つの班に分かれて年間を通じた活動計画を作成し、互いにプレゼンしました。

その結果、FGの今後の活動内容を検討するための「たたき台」が完成しました。函館大会終了後、函館のFGメン

バーで話し合いを進めていますが、内容を絞り込んでおりません。今後は、FGの活動内容を明確にするため、これまで積み重ねてきた議論も踏まえて、各都市のFGメンバーとも連携を図って進めてまいります。

FG部会副部長
嶋村 翔▼



▲5都市FG集合写真



▲活動内容の話し合い



▲活動計画のプレゼン

※FGとは: Future Generationの略で、これからの景観まちづくりを担う次世代の集まりのこと

行政会議

2023年9月9日(土) 16:10~16:30

会場:函館市民会館2階小会議室

administrative meeting

5都市の行政担当者が集まり、①開港5都市景観まちづくり会議HPの更新、②開港5都市景観まちづくり会議への行政の関わり方、の2点について意見交換を行いました。

- ・開催市挨拶
- ・各都市自己紹介
- ・議題について意見交換



代表者会議

2023年9月11日(月) 10:15~10:45

会場:函館市地域交流まちづくりセンター

representative meeting

5都市の代表者が集まり、①大会宣言、②開港5都市景観まちづくり会議の目標、③次期開催都市、の3点について協議し、横浜市が次期開催都市として正式に決定しました。

- ・開催市挨拶
- ・各都市代表者挨拶
- ・議題について協議



全体会議Ⅲ

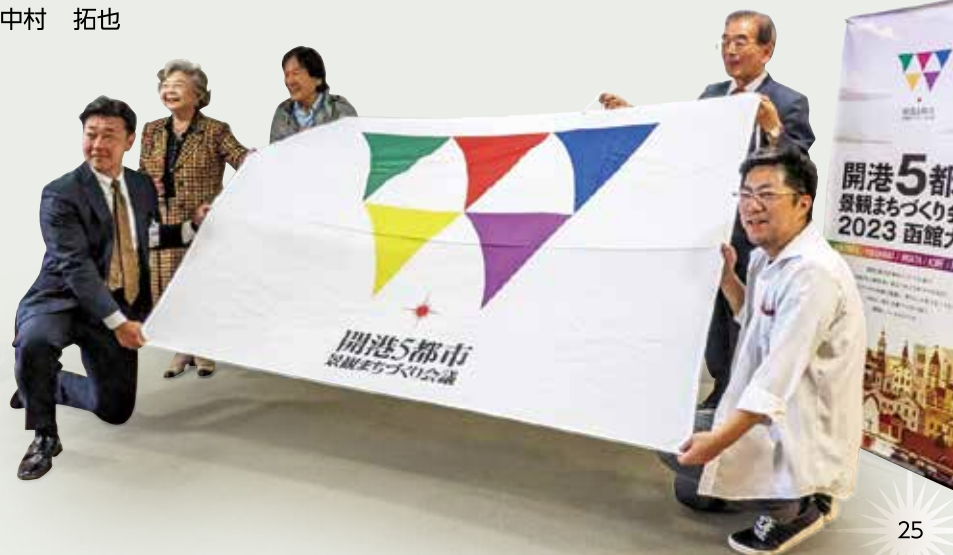
2023年9月11日(月) 11:00~12:00

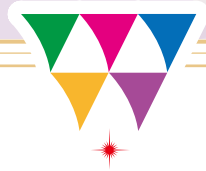
会場:函館市地域交流まちづくりセンター

General meeting 3

前日に行われた各分科会、全体会議ⅡおよびFG企画の報告のほか、大会宣言の発表、次期開催都市である横浜市への大会旗引継ぎ等が行われ、3日間にわたる函館大会は無事終了しました。

1.開会		
2.各分科会報告		
第1分科会	函館観光ボランティア・愛	武田 敦子
第2分科会	NPO法人 函館市青年サークル協議会	仙石 智義
第3分科会	公立大学法人公立はこだて未来大学	安井 重哉
第4分科会	一般社団法人 北海道建築士会函館支部	小川 聡
第5分科会	函館観光ボランティアガイド縁ジョイ倶楽部	加藤 政代
第6分科会	縄文DOHNANプロジェクト	山田 かおり
第7分科会	はこにわ	松本友香里
第8分科会	一般社団法人 はこだて地方創生研究会	川崎 啓太
3.全体会議Ⅱ報告	FG部会	飯尾 遼太
4.FG報告	FG部会	中村 拓也
5.代表者会議報告	函館市都市建設部	種崎 俊
6.大会宣言	開港5都市景観まちづくり会議2023函館大会 実行委員会 副実行委員長	渡邊 政久
7.大会旗引継ぎ	開港5都市景観まちづくり会議2023函館大会 実行委員会 実行委員長	佐々木 馨
	横浜の文化を愛する会	宮川眞壽美氏
	一般社団法人関内まちづくり振興会	国吉 直行氏
	横浜市都市デザイン室	鈴木 淳氏
8.次期開催都市挨拶	横浜の文化を愛する会	宮川眞壽美氏
9.主催者謝辞	開港5都市景観まちづくり会議2023函館大会 実行委員会 実行委員長	佐々木 馨
10.閉会		





開港5都市景観まちづくり会議2023函館大会 大会宣言

北海道唯一の開港港として異文化を取り入れながら発展を遂げた、ここ函館において、「原点・いま・そして、その先へ～5都市の対話による未来のデザイン～」をテーマに、開港5都市景観まちづくり会議2023函館大会が開催された。

大会プログラムの検討にあたっては、景観まちづくり会議を開催する意味、開催地に5都市が集う意味を改めて問い直した結果、3日間の大会を通じて“対話”をベースコンセプトに設定し、当日は、異なる考えを互いに尊重し合い、未来志向の熱い議論が行われた。

また、全体会議IIでは、次世代を担う各都市のFuture Generationが連携して企画に取り組み、持続可能な景観まちづくり会議の実現にむけ、めざすべき目標を設定したほか、そのFGでは、オプション企画で朝まで夜通しで熱く語り合い、今後、5都市のFGが緊密に連携を図り、継続的に取り組む具体的な方針を定めるなど、これまでの枠組みに縛られない、新たな企画にも挑戦した。

異なる考えを受け入れ、新たなことに挑戦するというマインドは、開港という荒波に揉まれながらも、歴史を紡いできた、5都市市民に脈々と受け継がれているDNAであろう。

「安政の開港5港」という枠組みは、今後増えも減りもしない唯一無二のものであり、相互に影響を与えながら、新たな芽が生まれ始めている。この先、10年後、50年後も5港が強くつながり、レジェンド、FG、行政など、様々な人たちが混ざり合い、動きつづけていくことを約束し、ここに宣言する。

2023年9月11日
開港5都市景観まちづくり会議2023函館大会
参加者一同

Photo Album



開港5都市景観まちづくり会議の沿革

第1回	1993年(平成5年)	8月	神戸	坂のまちと旧居留地
第2回	1994年(平成6年)	10月	長崎	市民主導のまちなみ・まちづくり
第3回	1996年(平成8年)	2月	新潟	港といっしょになった都市、一体となった都市って何だろう？新潟らしさの提案
第4回	1996年(平成8年)	10月	函館	北の開港都市に民の系譜を探る
第5回	1997年(平成9年)	10月	横浜	開港都市の伝統・文化を活かした街づくり
—	1998年(平成10年)	10月	神戸	【代表者会議】
第6回	1999年(平成11年)	10月	神戸	開港都市の未来(あした)を探る ～共生する地域文化～
第7回	2000年(平成12年)	10月	長崎	開港都市の遺伝子を伝える ～長崎から21世紀に発信する都市文化の創造～
第8回	2001年(平成13年)	8月	新潟	水都(みなと)にいがた夏!! ようこそ～新世紀の開港都市文化を暑い熱い新潟で語り合う～
第9回	2002年(平成14年)	10月	函館	北の国からのメッセージ いいべや「港・まち並み」考えよう
第10回	2004年(平成16年)	3月	横浜	150年の歴史とにぎわいづくり
—	2004年(平成16年)	12月	神戸	【代表者会議】
第11回	2005年(平成17年)	10月	神戸	開港都市のさらなる飛躍～明るく、元気!!～
第12回	2006年(平成18年)	9月	長崎	開港によってもたらされた文化と歴史の継承
第13回	2007年(平成19年)	11月	新潟	田園と港が出会うまち、政令指定都市・新潟で語り合おう 爽りの秋にいがたへ来なせや
第14回	2008年(平成20年)	10月	函館	新・函館探訪～呼吸(いき)づくまちを未来へ繋げ～
第15回	2009年(平成21年)	9月	横浜	150年の贈りもの～新たな旅立ちへ～
第16回	2010年(平成22年)	10月	神戸	共生のまちづくり～時間・空間・文化を超えて～
第17回	2011年(平成23年)	11月	長崎	愛・絆・希望 5港の祈り～長崎から～
第18回	2012年(平成24年)	10月	新潟	新潟の「らしさ」を求めて～過去・現在・未来へのつながり～
第19回	2013年(平成25年)	9月	函館	再発見!“ひと”と“まち”をつなぐもの～開港と食とラボ～
第20回	2014年(平成26年)	10月	横浜	開港5都市の未来 これからもココから
第21回	2015年(平成27年)	11月	神戸	開港都市からの発信～わたしたちのまちづくり～
第22回	2016年(平成28年)	11月	長崎	継承と発展～次の世代の景観まちづくり～
第23回	2017年(平成29年)	9月	新潟	語り合おう港への想い～歴史と未来がつながる開港150周年～
第24回	2018年(平成30年)	9月	函館	未来につなぐまちづくり～今、立ち止まって考える。～
第25回	2019年(令和元年)	11月	横浜	見つけよう、広げよう! 開港都市の可能性
第26回	2020年(令和2年)	10月	神戸	withコロナ時代の新しい景観まちづくり
第27回	2021年(令和3年)	11月	長崎	ポストコロナ時代の「港」を生かしたまちづくり～歴史・つながり・未来～
第28回	2022年(令和4年)	9月	新潟	温故知新～五港のキズナを未来へツナグ～

開港5都市景観まちづくり会議規約

(名称) 第1条 本会議の名称は、「開港5都市景観まちづくり会議」(以下「景観まちづくり会議」という)と称する。	(組織) 第4条 景観まちづくり会議は、開港5都市のまちづくりを実践する市民団体等で構成する。 2 必要に応じ、関係諸機関、団体等の参加を求めることができる。	3 会長は、本会議を代表し、会務を総理する。 4 役員の任期は、定期大会終了から次期定期大会終了までの間とする。
(目的) 第2条 景観まちづくり会議は、安政5年に開港港に指定された函館、新潟、横浜、神戸及び長崎の5都市(以下「開港5都市」という)の市民が、景観、歴史、文化、環境などを大切にまもり、愛着をもってそだて、個性豊かで魅力あるまちづくりを行うため、相互に交流を深め、課題を協議し、開港5都市のまちづくりの推進に資することを目的とする。	(会議) 第5条 景観まちづくり会議の会議は、定期大会、代表者会議及びFuture Generation会議(以下「FG会議」という)とする。 2 定期大会は、原則として年1回会長が開催する。 3 代表者会議は、会長が必要に応じ開催することができる。 4 FG会議は、景観まちづくり会議の継承・発展のため、年間を通じて開催できるものとし、FG会議事務局が開催する。	(事務局) 第7条 景観まちづくり会議の事務局を会長都市の実行委員会又はまちづくりを実践する市民団体等に置く。 2 FG会議の事務局は、FG会議で別途定める。
(活動) 第3条 景観まちづくり会議は、前条の目的を達成するために次の活動を行う。 (1) 情報の交換 (2) 共通の課題に対する調査研究 (3) その他、前条の目的達成に必要な活動	(役員) 第6条 景観まちづくり会議に会長を置く。 2 会長は、定期大会開催都市の実行委員会又はまちづくりを実践する市民団体等の代表者をもってこれに充てる。	(規約の改正) 第8条 本規約の改正は、景観まちづくり会議の代表者会議の議決によらなければならない。 付 則 本規約は、平成11年10月11日から施行する。 本規約は、令和3年11月22日から施行する。

各都市参加団体

横浜

NPO法人 まちづくりエージェント SIDE BEACH CITY.
 横浜の文化を愛する会
 横浜歴史資産調査会
 横浜商科大学
 横浜市立大学 / 一般社団法人関内まちづくり振興会
 ヘリテイジタイムズ横浜・神奈川
 よこはまYYラボ ヨコハマまちトーク
 NPO法人 横浜コミュニティデザイン・ラボ
 株式会社ウェブリカ
 Yocco株式会社
 横浜市役所

神戸

北野・山本地区をまもり、そだてる会
 旧居留地連絡協議会
 美しい街岡本協議会
 南京町景観形成協議会
 栄町通まちづくり委員会
 新長田駅北地区東部いえなみ委員会
 魚崎郷まちなみ委員会
 三宮中央通りまちづくり協議会
 神戸元町商店街まちなみ委員会
 もとまちハーバー懇談会
 コネクト神戸
 地域問題研究所
 神戸市役所

長崎

長崎居留地歴史まちづくり協議会
 長崎市地域力研究会
 長崎都市・景観研究所
 東山手地区町並み保存会 / 東山手「地球館」
 ナガサキマチナカ女子部
 長崎東山手洋館活用プロジェクト / Pavé
 長崎市役所

新潟

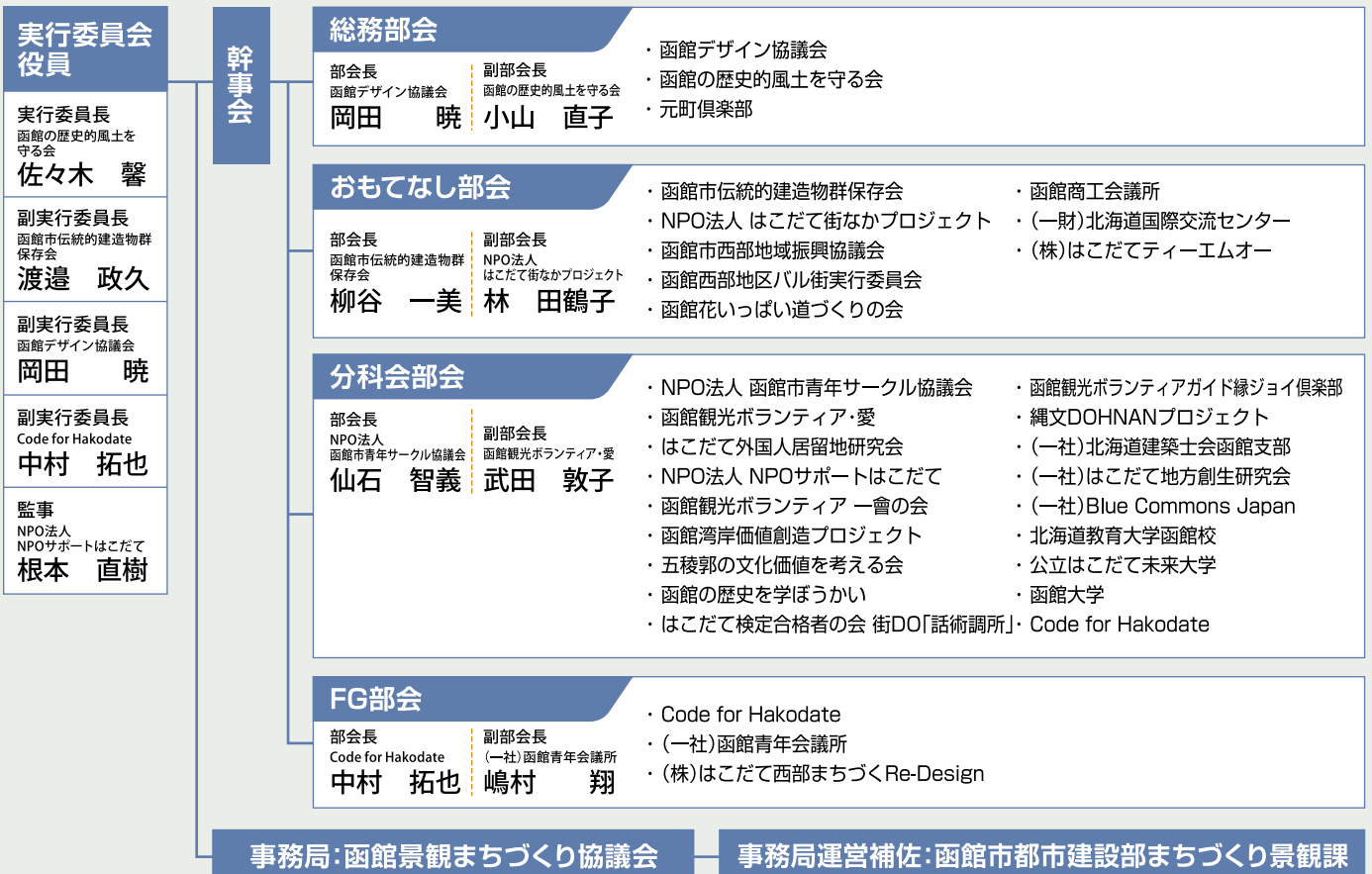
文化創造にいがた社中
 歴史都市新潟研究会
 新潟学の会
 新潟市景観ネットワーク(新潟学の会)
 新潟市景観ネットワーク(にいがたチューリップ部)
 NPO法人 新潟海洋開発
 新潟商人塾
 新潟市役所

函館

函館の歴史的風土を守る会
 元町倶楽部
 函館市伝統的建造物群保存会
 函館デザイン協議会
 函館市西部地域振興協議会
 はこだて外国人居留地研究会
 NPO法人 NPOサポートはこだて

函館観光ボランティア 一會の会
 函館観光ボランティア・愛
 NPO法人 函館市青年サークル協議会
 函館湾岸価値創造プロジェクト
 Code for Hakodate
 函館西部地区バル街実行委員会
 NPO法人 はこだて街なかプロジェクト
 五稜郭の文化価値を考える会
 函館花いっぱい道づくりの会
 函館の歴史を学ぼうかい
 はこだて検定合格者の会 街DO「話術調所」
 函館観光ボランティアガイド縁ジョイ倶楽部
 縄文DOHNANプロジェクト
 函館商工会議所
 一般社団法人 函館青年会議所
 一般社団法人 北海道建築士会函館支部
 一般社団法人 はこだて地方創生研究会
 一般財団法人 北海道国際交流センター
 一般社団法人 Blue Commons Japan
 株式会社はこだてティーエムオー
 株式会社はこだて西部まちづくRe-Design
 国立大学法人北海道教育大学函館校
 公立大学法人公立はこだて未来大学
 野又学園函館大学
 函館市役所
 はこにわ
 NPO "箱館写真"の会
 市民有志

実行委員会組織図





ハッシュタグ「#開港5都市」で発信しよう!!

開港5都市景観まちづくり会議
公式ウェブサイト
<https://kaikou5.jp/>



主催 開港5都市景観まちづくり会議2023函館大会実行委員会 (函館景観まちづくり協議会)

協力 金森商船株式会社・五稜郭タワー株式会社・函館バス株式会社・株式会社函館ビヤホール・株式会社ハコダテミライカモン・株式会社ファーストフラッシュ・株式会社二本柳慶一建築研究所・北海道函館工業高等学校・名美興業株式会社・函館山ロープウェイ株式会社・道南いさりび鉄道株式会社・道南いさりび鉄道地域応援隊・橋谷株式会社・有限会社弥生水産・市民有志

後援 北海道渡島総合振興局・公益財団法人 函館市文化・スポーツ振興財団・NHK函館放送局・HBC函館放送局・STV函館放送局・HTB函館支社・UHB北海道文化放送函館支社・TVhテレビ北海道・函館山ロープウェイ(株)FMいるか・北海道新聞函館支社・朝日新聞函館支局・読売新聞函館支局・毎日新聞函館支局・函館新聞社・NCV函館センター

開港5都市景観まちづくり会議2023函館大会実行委員会 (函館景観まちづくり協議会)

■函館の歴史的風土を守る会 ■元町倶楽部 ■函館市伝統的建造物群保存会 ■函館デザイン協議会 ■函館市西部地域振興協議会 ■はこだて外国人居留地研究会 ■NPO法人 NPOサポートはこだて ■函館観光ボランティア 一會の会 ■函館観光ボランティア・愛 ■NPO法人 函館市青年サークル協議会 ■函館湾岸価値創造プロジェクト ■Code for Hakodate ■函館西部地区バル街実行委員会 ■NPO法人 はこだて街なかプロジェクト ■五稜郭の文化価値を考える会 ■函館花いっぱい道づくりの会 ■函館の歴史を学ぼうかい ■はこだて検定合格者の会 街DO「話術調所」 ■函館観光ボランティアガイド緑ジョイ倶楽部 ■縄文DOHNANプロジェクト ■函館商工会議所 ■一般社団法人 函館青年会議所 ■一般社団法人 北海道建築士会函館支部 ■一般社団法人 はこだて地方創生研究会 ■一般財団法人 北海道国際交流センター ■一般社団法人 Blue Commons Japan ■株式会社はこだてティーエムオー ■株式会社はこだて西部まちづく Re-Design ■国立大学法人北海道教育大学函館校 ■公立大学法人公立はこだて未来大学 ■野又学園函館大学 ■函館市

お問い合わせ

函館市都市建設部まちづくり景観課
0138-21-3357
メール/machi@city.hakodate.hokkaido.jp